

3 横浜市立豊田小学校 平成29年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○ 「豊かにかかわり、じっくり考える☆豊田っ子」をめざします。	
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分の考えをもち、その考えを伝えたり伝え合ったりする授業を行い、学力を向上させます。 一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。 まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	めあてを明確にすることで、できた、わかったと実感できる授業を充実し、主体的に学習に取り組む子どもの育成を目指す。	1. 自分自身の考えや取組がはっきりしていれば、自分から進んで学習すると考え、「自分とかかわる」ということを大切にしていく。自分自身を見つめる機会を授業の中で位置づけていく。 2. 自分の考えをもつ場を授業の中に位置付け、そのことを表現・交流する機会をつくる。
担当	授業開発部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

横浜市の平均を上回っている学年もあるが、全体的に横浜市の平均を下回っている。学習意識では、学ぶ楽しさや必要性を感じていても、それが学力として定着していない傾向が見て取れる。自分の考えをもったり自分自身の姿を見つめたりする体験を通じた学びを継続するとともに、基礎基本の定着が全学年通して求められていると考える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年を通し、「話す力・聞く力」が低い。
- 算数科：「数学的な考え方」は伸びているが、全学年「技能」が低く指導改善が必要。朝ドリルの活用が必要。
- 社会科：「好き」と答えた児童が最も少なく、知識理解の定着が必要。
- 理科：「思考・表現」が伸びてきた。「知識」は指導、改善が必要。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から28年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として学力の学年間の差が縮まってきた状況が見られる。問題解決学習を大切に授業づくりをしてきた結果、思考面での伸びが見られた。しかし、その思考を支える基本的な技能や知識の定着が甘く、学びに深まりが見られていない。朝ドリルの時間の一層の活用や家庭学習の声かけをしていきたい。

3 平成29年度 学年・教科等としての具体的取組 「自分とかかわる・自分自身を見つめる」「子どもの姿をみとる」

1 学年

- 生活科を中心に体験活動を取り入れ、子どもの思いや願いをしっかりとくみとるようにする。
- ペアやグループ、縦割りなど様々な形態の活動を通して、一人ひとりのよさが感じ取れるようにする。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

- 生活科の学習を中心に、目の前の子どもが今、一番興味をもっていること、夢中になっていることを授業の中のつぶやきやカードやノートの言葉などから拾い、授業の中で生かしていく。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて考え、思いや感想をもつように指導する。

3 学年

- 歴史のある財の多い地域性を生かし、それを活用した総合的な学習を通して、地域の人やもの、こととかかわりをもつ。
- 自分の経験や既習の内容をもとに、次の課題を見つけたりやりたいことを決めたりして学習を進めるように授業を組み立てる。
- 自分の考えと友だちの考えを比べながら考えを深めるように助言する。

4 学年

- 体育科等で「自分を見つめる」「自分を大事にする」ことを重視し、なりたい自分の姿を思い描けるように、学習の場の設定を工夫する。
- 基礎基本の定着をはかり、「できる」「わかる」喜びを味わえるように、繰り返しの指導を充実する。
- 自分の考えと友だちの考えを比べながら考えを深めるように助言する。

5 学年

- 算数・理科の授業を中心に、自分で考える時間を確保し、自分の考えをもつようにする。
- 学習問題を自分たちで考えて作り上げることを通して、進んで活動できるようにする。
- 自分と違う考えも聞いて、よりよい考えを導こうとする姿を称賛する。

6 学年

- 教科等の学習で友だちとかかわれるように、ペア、グループ、全体など場合に応じて学習形態を工夫する。
- 学習のめあて、学習計画を自分たちで考えて作り上げることを通して、進んで活動できるようにする。
- 友だちの話を一般化したり、経験を加えて話したりしながら、よりよい考えを導けるように指導する。

個別支援学級

- 子どもの実態や保護者の願いをもとに個別の教育支援計画を作成し、自立を見据えたコミュニケーション能力や発達段階に合わせた言語能力などを育成する。
- 各学年の取組内容を把握し、子どもの実態に応じて学習に参加できるよう、計画を立てる。
- 異学年で構成されている学級の中で、豊かなかかわりができる活動を位置づける。